

心を磨く

「自律の力」～小さい勇気をこそ～

渡邊 二之 校長先生



全校道徳③9月15日（木）

多くの人に感動を伝えた素晴らしい運動会、気温35度を超える中でのホッケー全国大会の激戦…と、八頭中生の活躍する姿からお話が始められました。そして試合後のホッケー部生徒の言葉を紹介されました。それは「**毎日の生活をきちんとし、精神力を鍛えることが大切だと思った**」という部長の振り返りです。全国という大舞台で戦ってきた選手だからこそ言える、とても説得力のある言葉です。

次に、様々な障害を乗り越えて前向きに頑張るパラリンピック選手、そして事故で両足を切断した義足のランナー島袋勉さんのお話がありました。島袋さんはフルマラソンを完走し富士山登頂も果たされたそうです。ふりかかると困難や厳しい現実には屈することなく「**夢をあきらめない**」その姿は、校長先生ご自身がマラソンを始めるきっかけになったそうです。（校長先生は今も走り続けておられます。）また、マラソンに挑む人たちの中には、ノーベル賞を受賞した山中伸弥さんの姿もありました。

最後に紹介されたのは「**小さい勇気をこそ**」という詩です。日々の生活の中で「**前向きにちょっと頑張る**」。それが、八頭中生の目指す「自律」につながっていくこと、そしていざというときの大きな勇気を育てるのだというメッセージを受け取りました。

「**自分にもできるかもしれない**」、聞き終わった後で、誰もが前向きな明るい気持ちになる、そんなお話でした。

小さい勇気をこそ
東井 義雄

人生の大嵐がやってきたとき
大きな勇気もほしいが
わたしは小さい勇気こそほしい

わたしのせいとする仕事を後回しにさせ
テレビのリアルドラマや漫画に化けて
すぐそれを誘惑するとき
小さい勇気でいけるから わたしは
それがほしい

もう五分くらい寝ていたっていいじゃないか
あたたかい寝床の中にひそみこんで
わたしがささやきかける小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらい
小さい勇気こそ ほしい

明日があるじゃないか 明日やればいいじゃないか
今夜はもう寝ろよと
机の下からささやきかける小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらい
小さい勇気こそ ほしい

紙がつか落ちていたのを見つけたときは
さつさつと行かたかまよふふりを
かぜひきやの鼻紙かまよふふりを
不潔じゃないうちかまよふふりを
小さい勇気でいけるから わたしは
小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらい
小さい勇気こそ ほしい

どんな苦難も乗り越えられる
毎日いい勇気もほしいが
小さい勇気でもほしい
それがいいから たくさんほしい

それかめという小さい勇気を軽蔑しては
いざというときの大きな勇気も



～生徒感想より～

★私には「小さい勇気があるのでしょうか。課題より、自分のやりたいことを優先してしまいます。『もう5分くらい寝ていたっていいじゃないか。』私も毎朝そう思います。私は小さい失敗を何度も繰り返してしまいます。でも、小さい工夫をして小さい勇気を出せば、「成功」につながるのです。「まあいいか」を減らすだけで人は変われるのだと、このこの詩を聞いて考えました。「小さい悪魔」に「小さい勇気」で勝ちたいと思います。

(1年女子)

★マラソンのお話から、自分には足がないから歩けないと思うのではなく、いつでも前を見て、常に先を目指し続けることで、一步また一步と自分を強くしていけるということを感じました。そして失敗をするからやらないのではなく、その失敗から何を学び、次につなげるかが大事だということを学びました。いつでもポジティブに、失敗を次にどう生かすのかを考えて、これからの部活や生活面に取り入れ、自分を強くしていきたいです。

(1年男子)

★私は人前で話すことが苦手です。授業で発表もありません。今日、最後に読んでくださった詩を聞いて、私はとても共感できました。特に、「毎日小出しにして使える小さい勇気でいいから、それがわたしにはたくさんほしい」の部分です。毎日小さな勇気を使っている、それがどんどん大きくなって、大きい勇気になると思います。島袋さんのように両足を失った方でも、自分の心の中に絶対あきらめないと思う気持ちがあればどんなことでもできるのだと知り、これからの人生、どんな苦難があっても乗り越えられる自分になれるよう「小さい勇気」を重ねていきたいです。

(2年女子)

★京都マラソンのときの山中教授の「チャレンジして成功するかは分からないけど、チャレンジして成長することはできる」という言葉が印象に残った。チャレンジして成功しなくても、それは失敗ではない。成功しなくても、そこから学んで成長し、成功に近づけることができる。普段から小さい勇気を出しているいろいろなことをしていかなないと、チャレンジするための大きな勇気は手に入らない。「これは苦手だから」とか「嫌だから」などと言ってチャレンジしないのは、とてももったいないことだ。小さいことでも勇気を出して自信をつけ、より大きなことにチャレンジしていきたい。

(2年男子)

★運動会など、一生懸命に頑張ったことが人を感動させ勇気を与える。そして感動や勇気もらった人は、「自分も一步踏み出して新しいことに挑戦してみよう」という気持ちになる。事故で足をなくされた方が、義足でフルマラソンを走りきったお話を聞いて、私も自分のベースでいいから、一步一步踏み出し目の前のことに一生懸命になろうと思った。

(3年女子)



3年生の取り組み
私の「小さな悪魔」と「小さな勇気」



